様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号： １４３０１
研究種目： 基盤研究(C)（一般）
研究期間： 2013～2015
課題番号： ２５３７０９３９
研究課題名（和文） アフリカにおける都市零細商業の展開と多民族共生に関する都市人類学研究

研究課題名（英文） An Urban Anthropological Study on small commercial activity in Multiethnic African Urban Society

研究代表者

塩谷　暁代（SHIOYA, Akiyo）

京都大学・アフリカ地域研究資料センター・研究員

研究者番号：８０６３６１２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：都市化のすすむアフリカ都市の社会経済的動態の解明を目的とし、特徴的な二つの事象①多民族状況における②都市零細商業（市場の農作物ビジネス）の展開に着目した調査をカメルーン首都ヤウンデで行った。結果、多民族都市ヤウンデの農作物ビジネスでは民族的「専業」と出身地域の産物に特化した民族的「分業」が長期にわたり維持・再生産されている一方、近代金融の参入や都市開発を背景に商人間に経済的・政治的階層化が進展し、超民族的な社会関係が形成されていることが明らかになった。こうしたなか、民族的／超民族的な社会関係を選択的に活かすことにより、商業活動の競合性や民族間の緊張関係を緩和していることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Small commercial activities could be one of the important features of many African cities which have a rapid increase of population, also in Yaounde, the Cameroonian capital city that is the research area. I examine the change of small commercial activities in urban food market, especially agricultural product business, focusing the ethnic/inter-ethnic relationship. I conclude that the agricultural product business have been kept in ethnic commercial relationship for a long time since the independent. On the other hand, I found the progress of economic and political stratification inside of vendors in the context of introducing of the modern financial system and of urban policy. This progress causes the inter-ethnic commercial relationship and political network based on the scale of commercial activity. The vendors operate the ethnic/inter-ethnic relationship in proportion to his economic or political purpose for keeping his commercial activity in multiethnic urban society.

研究分野： 文化人類学

キーワード： カメルーン　都市人類学　アフリカ都市　多民族共生　零細商業　市場　インフォーマルセクター

１．研究開始当初の背景

近年、サハラ以南アフリカの都市人口は急速に増加し、加速的にすすむ大都市形成は現代アフリカを象徴する事象のひとつとなっている。本研究が対象とする中部アフリカ・カメルーン共和国もその例外ではない。カメルーンでは、総人口の約半数が都市人口となり、その首都ヤウンデは、現在 200 万人を超す大都市になりつつある。このような急速な都市化と都市生活の実態は、日本では未だ充分に知られていない。

アフリカにおける都市化の進行は、ふたつの根源的な論点を提示している。すなわち、増加の一途をたどる都市住民への食料安全供給の問題、また現金経済を前提とする都市での生活手段の問題である。

申請者は 1994 年より、アフリカ・カメルーン共和国の首都ヤウンデとその近郊農村において、都市－農村間をめぐって展開する農作物流通と都市／農村女性による農作物販売に着目した都市零細業の調査・研究をおこなってきた。これまでの調査から、都市／農村女性を中心的担い手とした零細な商業活動が、その総体として都市向け食料供給の根幹を支えている点、都市－農村地域経済を基盤として展開する農作物販売が「農村的サブシステンス・エコノミー」と「都市的商業経済」の接合によって維持されている点が明らかになった（塩谷 2013a,b）。この成果は、小規模な商業活動であっても総体として国家（都市）経済に寄与する可能性があること、都市零細商業は単なる「サブシステンス・エコノミーから都市的商業経済への移行」ではないことを示唆した。

国家経済との対比においてインフォーマルセクターともよばれる都市零細商業の従事者は、国家経済体制の強化がすすみつつある現在、アフリカ諸都市においてフォーマルといえるほど増加している。このような現状とこれまでの調査・研究から、都市零細商業は新たな「アフリカ的生業経済」として、都市の社会経済的基盤をささえるひとつの要因ではないか、という着想をえた。都市化の進展にともなう社会変動のなかで、都市零細商業が維持され、活発に展開されるのは、どのような共同性や秩序に依るのか。

アフリカのモラル・エコノミー論を展開したハイデンは、親族関係や地縁などを基盤とした互酬的関係や相互扶助システムといった「相対的自律性」にささえられる「情の経済」が、農村のみならずアフリカ都市の経済活動においても機能していると指摘している（Hydén,G. 1980 他）。またグローバル経済下においてなお維持される、都市零細商業固有の共同性、自律性をみいだそうとする研究視点は、近年のアフリカ都市人類学研究においても展開されつつある。これらの研究が示すのは、アフリカ都市の経済活動において発揮される民族的社会原理や商業エスニシティの存在、また商慣行や行動規範における独自性の存在である。

本研究はこれらの先行研究に与するとともに、アフリカ都市の特徴ともいえる多民族状況についても研究視野を広げる。都市零細商業を「民族的社会原理」と「多民族的あるいは超民族的な都市社会原理」が接合・競合しながら働きうる場と捉えることにより、より動態的なアフリカ都市人類学研究が可能になると考えた。

２．研究の目的

本研究は、拡大しつつある現代アフリカ都市の社会経済的動態の解明を研究目的とし、アフリカ諸都市において特徴的なふたつの現象である①多民族状況における②都市零細商業の展開に着目する。具体的には、公設市場およびその周辺路上において個人規模で展開する農作物ビジネスに焦点をあて、そこに生成する共同性や秩序の析出と分析をおこなう。分析視点として「民族的社会原理／多民族あるいは超民族的な都市社会原理」というパラダイムをおき、その連続性と諸相を現地調査による資料を通じて検証する。この動態関係の検証により、アフリカ都市において形成される都市性あるいは多民族社会性をうみだす社会経済的動態を考察する都市人類学研究を試みる。

３．研究の方法

研究方法は、参与観察・聞取り調査・文献資料調査、以上３つの手法をもちいた。

研究は、３つの段階において展開した。

(1) 研究の第一段階：：差異化の諸相＝「民族的社会原理」の検証

1990 年代に申請者が実施した公設市場(以下、市場）の調査から明らかになったのは、市場の農作物ビジネスにおける民族的な分業化と専業化であった。すなわち、公設市場の食品部門における商人は、中央州出身ベチ Beti、西部州出身のバミレケ Bamiléké、北部州出身のハウサ Haoussa を中心に構成され、多民族都市における専業化をしめした。さらに、それぞれの民族的生業に依拠した生産物販売に特化し、農作物ビジネスにおける分業化をしめした。民族的な分業化と専業化は、生業に依拠した商業的つながり、すなわち「民族的社会原理」によって維持されていることが予想された。

研究の第一段階では、市場の農作物ビジネスにおける民族的な分業化と専業化の今日的状況を再検証し、そこに見出される変化とその要因を明らかにする。さらに、公設市場の農作物ビジネスにおいて優勢な商人であるエトン、バミレケ、ハウサについて、商品入手にいたる商業的つながりについて調査し、商業形態の比較研究をおこなう。エトン／バミレケ／ハウサは、歴史的社会経済的背景の全く異なる人びとであり、ヤウンデの多民族状況の一側面を端的にあらわす研究対象と考えられる。

研究の第一段階においては、農作物ビジネスにおいて「民族的社会原理」が発揮される、民族間の差異化の諸相を明らかにすることを目指す。

(2) 研究の第二段階：同化の諸相＝「多民族的あるいは超民族的な都市社会原理」の検証

従来、市場の商人が行ってきた経済互助組織・頼母子講は、貯蓄や貸付といった経済機能のみならず、保険やメンバー間の相互扶助をいった社会機能を備え、商業活動のみならず都市生活の保障におよぶ多義的な意味をもって機能してきた。それは、市場における信用あるいは同業者ネットワークといった、長期的な社会関係を基盤として維持されてきた。経済互助組織・頼母子講は、銀行で融資を受けることのできない零細商人の資金調達を可能にしてきた。

しかし 2000 年代にはいって増加した民間金融（小規模貸付業者）の参入により、資金をもたない零細商人であっても、少額融資を受けることが可能になり、資金調達をめぐる状況が多様化していること、また、大卸売業者の発達にともない、仕入れ関係が多様化・重層化していることが近年の調査からわかっている。これにより、ビジネスの基盤となる資金調達、商取引をめぐる経済行為が、多民族的あるいは超民族的な共同関係のなかで展開していることが予想される。また、共同関係の在り方は、一時決済を基礎とした短期的な関係から互酬性を基礎とした長期的な関係まで、さまざまな様相をみせると考えられる。

研究の第二段階では、「多民族的あるいは超民族的な都市社会原理」において発揮される共同性を多民族都市ヤウンデという全体性、または都市零細商業の成立（全体性）というコンテキストにおいて検討する。これを通じて目指されるのは、「多民族的あるいは超民族的な都市社会原理」が発揮される民族間の同化の諸相を明らかにあることである。

(3) 研究の展開

差異化と同化というふたつの側面は、どちらが欠けても農作物ビジネスを成り立たせなくする危険をはらんでいる。最終的な研究展開として目指されるのは、商人たちが差異化・同化の過程を経ながらも、全体として、市場における農作物ビジネスを成立させるために発動する創意・工夫といった、対処のメカニズムの発見である。民族間の差異化／同化の諸相を通じて現れる対処のメカニズムは、本研究のパラダイムの連続性を示し、ヤウンデの社会経済動態を構成する都市性あるいは多民族社会性としてあらわれることを検証する。

４．研究成果

研究の成果は、本研究のパラダイムにそって、多民族状況下における都市零細商業（農作物ビジネス）にみられた(1)差異化の諸相＝「民族的社会原理」と(2)同化の諸相＝「多民族的あるいは超民族的な都市社会原理」のふたつの側面について論じる。最後に(3)「差異化／同化」の連続性を検証する。

(1) 差異化の諸相＝「民族的社会原理」の検討

文献調査では、植民地統治を契機として形成された「植民地都市」ヤウンデの都市形成過程を整理することにより、現在の多民族的状況を通時的に分析する視座をえることができた。人口増加のすすむヤウンデでは、街区の拡大とともにカメルーン独立期にみられた民族毎の集住（主に旧市街に相当）に加え、社会経済的階層による住み分け（多民族的な居住空間としての新市街に相当））もすすみつつあることが確認できた。このように都市空間的には多民族状況が進展するなか、都市形成にともなってカメルーン各地から移住してきた商人たちの社会・文化的背景に関する聞取り調査からは、親族・出身村・同一民族といった個人の出自の延長線上あるネットワークを基盤にして農作物ビジネスへの新規参入が可能になってきたこと、すなわち、市場での商売に参入する経緯において重要なのは、民族的つながりであることが明らかになった。

市場の農作物ビジネスにおける民族的な状況調査から明らかになったのは、250 以上の民族がいると言われる多民族都市ヤウンデにおいて、3 つの民族が市場のビジネスに特化している点、すなわち、農作物ビジネスにおける「専業化」の傾向とそれぞれの民族的生業に依拠した生産物販売に特化した「分業化」の傾向である。これは先に述べた 1990 年代の調査結果と変わらない状況であり、すなわち生産から販売にいたる商業ネットワークが民族的なつながりを基盤として長年維持されていることが明らかになった。

(2) 同化の諸相＝「多民族的あるいは超民族的な都市社会原理」の検証

一方、市場内で活発におこなわれる経済互助組織・頼母子講は、民族に依らない市場内の商人ネットワークをつうじて展開している。長いもので 20 年にわたり継続してきた組織がある一方、持ち逃げや不履行によって失敗におわる組織や講も存在する。リスクを分担しあう商人たちが最も重視するのは、出自ではなく、市場における商人（個人）の日々の行為と商業活動の規模・継続性である。オープンスペースである市場では、各々の商人がどのように商売をおこなっているかをその継続性をふくめ、相互に確認し合っているのである。

経済互助組織・頼母子講に関する調査から、利用者である商人たちが最も重視するのは「交渉可能性」「相互扶助」「(市）場の共有」といった側面であることが確認できた。経済互助組織や頼母子講への参加をとおして、相互扶助のみならずリスクの分担を負うことで、本来は競合的である商業活動が、「個人

の経済活動」から「わたし達の経済活動」として位置づけられているといえる。ここでは市「場」の共有と日々の行為の積み重ねによる信頼を基盤とした人と人のつながりが重視され、多民族的な関係が結ばれる。

しかし近年増加している民間金融との関係は、それとは全く異なる交渉不可能な「契約」であり、この論理のズレによって利用と忌避といった対応の違いが生まれ、商業活動の規模あるいは商業圏に差異が生まれつつある。貸付の利用によって、出自（出身地域）に限らない広域にわたる仕入れをおこなう資金の調達が可能になり、商人が商業規模を拡大する契機となっている。しかし一方で、従来の経済互助組織や講が担ってきた社会的機能はここには含まれない。商業活動のリスクを保証するのは、この場合、個人の才覚のみとなり、従来の相互扶助は期待できない。

資金調達手段の多様化しつつあるなか、その選択をめぐって商人の経済状況に格差が生じつつあるといえる。こうした格差は、政治状況においても確認された。

2006 年以降、国家経済体制の強化を目的とした都市開発計画がすすめられ、ヤウンデ市が統括する市場においても空間的・構造的変革がすすんでいる。現地調査では、ヤウンデ市の主導で行われている商人の組織化と管理方法（徴税および治安）に着目し、行政官・徴税人・市場の商人代表およびセクター責任者などに聞取り調査と参与観察をおこなった。これにより、国家の論理とこれまで商人のあいだで形成されてきた秩序には乖離がみられるものの、実際の現場では、役人（行政から任命された市場責任者および徴税人）と商人との具体的なやりとりのなかで、出自あるいは民族的アイデンティティを拡大操作しながらその場に対処する柔軟性が観察された。

しかし、都市行政の要請により市場内に商人組織（都市行政の下部組織）が結成され、タテの組織化がすすむことにより、選出された商人は「エリート」とよばれ、商人間に緊張関係が生じている。従来、市「場」の秩序を実際に維持してきたのは、長年市場で商売を営んできた古参の商人であった。都市行政はこの古参商人を組織のなかに組み込む一方、そこに組み込まれなかった古参商人や新規参入した商人は、「統治される側」に位置づけられることになった。

市場内で生じている商人間の経済的格差と政治的階層化は、二つの展開に結びついている。ひとつは、仕入れ関係の重層化・多様化である。民間金融を利用した資金調達により商業圏拡大あるいは商業規模拡大を果たした商人が大規模な買付をおこなうようになったことにより、民族的つながりに拠らない取引関係が促進されている。また地方定期市に仕入れに行けない零細商人が市場内で商品（農作物）を仕入れることが可能になった。もうひとつは、同業者組合の結成である。「エリート」商人を中心とした組合が結成され、都市行政との交渉窓口としての役割を果たすようになった。いずれの展開も経済的目的や政治的動機を契機とした「超民族的あるいは多民族的」なつながりのなかで社会関係が形成されていることが明らかになった。

(3) まとめ：差異化／同化の連続性

近代金融の参入や都市行政による介入といった状況変化のなか、市場の商人は民族的／超民族的な社会関係を選択的に活用しながら商業活動を維持している。民族的つながりは、商品仕入れにおける利便性（生産地とのつながり）や交渉言語などの優位性をもって活用され、また超民族的つながりは、資金調達のみならず都市生活における相互扶助や政治的目的の達成あるいは主張において活用される。都市零細商業に生活基盤をおく商人たちにとって、経済的目的と政治的目的のふたつを達成することがその商業活動を維持する重要な要件であり、商人たちは市「場」を基点としながらその重点を操作している。本研究では、このようなダイナミズムのなかで商業活動における競合性や民族間の緊張関係を緩和していることが明らかになった。

また、本研究では、都市零細商業が決して一枚岩の存在ではなく、その内部においても経済格差や政治的階層化をうむものであることが明らかになった。本研究のように、長期にわたる現地調査をつうじて都市零細業における内部のダイナミズムを具体的に明らかにした都市人類学的研究はほとんどみられない。急速に拡大しつつあるアフリカ都市の実態を明らかにする研究として、都市研究や社会関係資本論にも新たな知見を加えることができると考える。この 3 年の研究成果はまだ十分にまとめきれたとはいえず、さらに分析を深めながら学術論文として成果発表をしていく予定である。

本研究の過程で確認した同業者による組合の結成は、これまで零細ゆえに流動的で不安定な経済活動として位置づけられがちであった都市零細商業あるいはフォーマルセクターの新たな展開として重要な事象といえる。グローバルな展開を新たな市民運動と捉え、「インフォーマル性」を再検討するといった、近年の政治経済学の成果とも重なりうる課題として、今後、さらに研究をすすめる必要があると考えている。

＜引用文献＞

Hydén,G. 1980 ***Beyond Ujamaa in Tanzania:Underdevelopment and Uncaptured Peasantry***, University of California Press.

Shioya,A. 2003a “Dynamics of Women’s Commercial Activities in Urban Food Supply of Cameroon : A Case Study of Yaoundé and its Hinterland, Lékié Division”, in ***Journal of Religious Dynamics in Africa***

for knowing 21st century Africa vol.1, Nagoya University, pp.209-218.
塩谷暁代 2013b「「カメルーン首都ヤウンデをめぐる都市－農村間の農作物流通と女性商人の商業活動」学位（博士）申請論文（名古屋大学）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1　件）
① SHIOYA, Akiyo.2013 “Cassava Processing and Marketing by Rural Women in the Central Region of Cameroon”, in *African Study Monographs*, Center for African Studies, Kyoto University, Vol.34 (4), pp.203-219.

〔学会発表〕（計　1　件）
① 塩谷 暁代 「カメルーン首都ヤウンデにおける市場商人の資金調達手段と近年の変化―都市零細商人の現在―」『日本アフリカ学会』第 51 回学術大会、京都大学、2014 年 5 月

〔図書〕（計　0　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
塩谷 暁代（SHIOYA, Akiyo）
京都大学アフリカ地域研究資料センター・研究員
研究者番号：８０６３６１２６

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：